



# スピリット 常中魂

平成28年5月10日 NO. 13  
 〒311-1114 水戸市塙崎町1016  
 TEL029-269-2116  
 FAX029-269-3160  
 Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで、カラー版が見られます】

## 二本ある手のうち一本は人のために使う

校長印	副校長・教頭印	4月28日 木曜日	天気	気温	当番印
		雨	17°C		
看護状況					。下校時、1年生2名が自転車のタイヤに荷物をいぶるひもをからまってしまった。また自転車の乗り方やさしこまい様子であるので、交通ルールも含め、安全な乗り方ができるよう指導していかたい。 ひもを直してくれたのは3年女子生徒であったが、手や油で汚れるのも気にせず、雨の中直してくれた。1年生もとても感謝していました。先輩として立派らしい姿を見せてくれたと思う。

学校では、先生方も生徒たちと同じように、当番制で日誌を付けています。

4月28日は、細谷倫子先生の当番でした。

日誌には、3年生女子の「常中魂」あふれる行為が紹介されています。『二本ある手のうち、一本は人のために使う』まさにこののような行為の紹介です。

1年生は、まだ自転車の乗り方や、ひもの縛り方がよくできません。登校途中でひもが外れ、自転車に積んだ荷物が道路に落ちてしましました。それを見かけた3年生女子たちが、ひもを直してくれました。こう記述されています。

「ひもを直してくれたのは3年生女子生徒であったが、手が油で汚れるのも気にせず、雨の中直してくれた。」とあります。

先輩から後輩へのメッセージは、自分の行動で示す。これも「常中魂」です。

このような常中魂あふれる行為は、皆で称えるべきだと思いますので、ここに紹介します。

献立は「鮭の梅ソースかけ」や水戸市で採れる食材を使った「みどりぼう汁」など5品。日本遺産1周年を記念して食材を通じて郷土愛を育んでもらおうと市が実施。観梅で有名な偕楽園やサケが上る那珂川にちなみ、梅やサケなどの食材を使用。水戸市産のコシヒカリや野菜なども取り入れ

味わっていた。弘道館や偕楽園などが日本遺産に認定されて1周年となるのを記念し、水戸市にゆかりのある食材を使つた「日本遺産認定一周年献立」が9日、同市内の小学1丁目の市立梅が丘小(矢萩賢一校長)では子どもたちが「おいしい」と笑顔で味わっていた。

香奈さん(11)は「梅干しが大好きなので、梅ソースがかかつた」と笑顔を見せた。

高橋靖水戸市長も給食に参加し、児童らと給食を楽しんだ。

給食前の4校時目は日本遺産に関する授業を実施。市が昨年度から導入した水戸の先人の生き方や教えを学ぶ「水戸教学」の一環で、弘道館を中心とする教育遺産群について勉強した。子どもたちからは「県外の日本遺産にも行きたい」などの声が上がった。(成田要)



上記の記事は、5月10日付けの茨城新聞の記事です。

本校では、本日「日本遺産認定一周年献立」による給食が実施されました。

五月十日茨城新聞より

